

令和6年8月30日

自由民主党 礎

代表 成松 由紀夫 様

八代市議会自由民主党 礎
管外行政視察復命書

視 察 期 日 : R6.7.10 (水) ~ R6.7.12 (金)

視 察 先 : 【東京都】 武蔵野の森総合スポーツプラザ
荒川区
農林水産省

参 加 者 : 議 員 成松 由紀夫

議 員 上村 哲三

議 員 友枝 和也



議員名【成松由紀夫】

- ◆視察日：令和6年7月10日（水）
- ◆視察先：武蔵野の森総合スポーツプラザ
- ◆調査項目：武蔵野の森総合スポーツプラザについて

- ・施設の概要として面積約33500㎡で鉄骨鉄筋コンクリート造でメインアリーナ棟とサブアリーナ、プール棟からなる。
- ・工事着工がH25年12月から平成29年11月に開業され、約4年間かかっている。
- ・年間ベースの利用状況として、メインアリーナは約5万人、サブアリーナは約4万人、稼働率がメインアリーナがー昨年70%、昨年86%、サブアリーナがー昨年87.8%、昨年は96%となっている。
- ・指定管理者は東京スタジアムグループである。
- ・運営費は9億円で指定管理費2億6000万円（都から）、後は自主収入である。コンサート20回。
- ・座席数は1万人であり、こちらの都市部のアリーナの

感覚と地方のプライズの考え方の違いを、ハイレ市としては

しっかりと促さないと、なかなか難しいものと思われ。

この都市部でも都立ということではあるが、大変まいい

状況である

自由民主党 礎・和・絆 視察所見

議員名【成松由紀夫】

◆視察日：令和6年7月11日（木）

◆視察先：東京都荒川区

◆調査項目：ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの推進について

・「ゆいの森あらかわ」の設置について議会から諸提言を頂き

共同して進められた図書館であり、ゆいの森あらかわの3つの

機能からなっており、特に図書館、吉村昭記念文学館、

ゆいの森こどもひろば、えほん館、ゆい森ホール等の

各種とりくみがキチンと配置されているのが

素晴らしい。

・来場者数は年間68万人と成果・効果は

群をぬいている。ここまで来ると全国を視察

50回以上重ねている。

・運営費は年間6億円であり、収入は2/00万円

程度で、未来への投資であり、「非認知能力」

が重要であるとの言葉に感銘を受けた。

・建設費は90万円,

・読書のPTを組んで、~~各~~各課が連携している

為、幼児期からの「読み聞かせ」がうまくいっ

ている。各健診に図書館と連動させている。

・またまたハ代は学ぶ点が多いと感じた。

- ◆視察日：令和6年7月10日（水）
- ◆視察先：武蔵野の森総合スポーツプラザ
- ◆調査項目：武蔵野の森総合スポーツプラザについて

○施設の概要、敷地面積：約33,800㎡

○建築面積：約27,206㎡、建物延床面積：約49,120㎡

①メインアリーナ棟：約27,600㎡ ②サブアリーナ、プール棟

：約21,520㎡

○武蔵野の森総合スポーツプラザは、味の素スタジアムと

合わせて多摩の一大スポーツ拠点を形成し、競技大会

や地域スポーツの拠点として多摩のスポーツ振興に

貢献すること、大規模イベント等の会場として、地域の

賑わいに貢献することを目的としている。

○管理運営の基本方針、隣接する5万人規模のスタ

ジアムと一体的な多摩の一大スポーツ拠点として

子ども、働く世代、高齢者、障がい者を問わず、あ

らゆる都民のために最良のスポーツの機会を提供する。

大きい施設であるがゆえに、運営については、

収支の面で苦労があることも感じた。

近代的施設であり、素晴らしいものであった。

- ◆視 察 日：令和6年7月11日（木）
- ◆視 察 先：東京都荒川区
- ◆調査項目：ゆいの森あらかわ及び読書を愛するまち・あらかわの推進について

「ゆいの森あらかわ」は、荒川ほふの施設であり、

敷地面積 約4100㎡、延床面積 約10,900㎡ であり

建設費は約50億円。

図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森こどもひろば

の、これまでにない新しい 複融合施設 である。

災害時は、防災拠点となり、施設も充実している。

飲食可のスペースもあり、長時間滞在可能である。

・図書館があるのに「静粛」ではない。

地域コミュニティの拠点だから、会話OKである。

「ゆいの森あらかわ」の計画から実現まで、
管理運営方針の決定から、時間をかけ、
又の設置条例制定も実行されている。

又、運営は、この取組であり続ける事も重要な
事であった様に思えた。

武蔵野の森総合スポーツプラザについて

視察日:令和6年7月11日(水)

視察先:武蔵野の森総合スポーツプラザ

調査項目:武蔵野の森総合スポーツプラザについて

友枝和也

武蔵野の森総合スポーツプラザは、隣接する五万人規模の味の素スタジアムと合わせて多摩の一大スポーツ拠点を形成。基本方針として、多摩地域のスポーツ振興、まちづくりに貢献、トップレベルの競技大会に対応、公益性と収益性の両立を図る施設運営など。

メインアリーナは固定席6000席。仮設席等の設置により最大約10000人以上収容可能。

大型映像装置1面、各種スポーツ用品(バレーボール、バスケットボール、バドミントン、新体操、ハンドボール、フットサル、卓球等)

競技フロア(バレーボール4面、バスケットボール4面、バドミントン18面、卓球50台、フットサル3面)

サブアリーナ、プール棟では、固定席340席。(バレーボール2面、バスケットボール2面、バドミントン10面、卓球30台、フットサル1面、剣道4面)

屋内プールでは、50m×20mプール(8コース)国内公認取得。

トレーニングルーム(ランニングマシン12台、エアロバイク14台、アークトレーナー4台)

駐車場は一般用134台、関係者用43台(大型車も駐車可能)駐輪場492台)

施設が実施する事業では、「東京都スポーツ推進総合計画」スポーツの力で東京の未来を創るという基本理念のもと、都民のスポーツ実施率70%を達成し、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」の実現を目指す。

地域貢献事業として、地域の賑わい、活性化に貢献することを目的とした事業を企画、立案及び実施する。さらに周辺連携事業では、様々な主体との積極的な連携により、武蔵野スポーツプラザのポテンシャルを最大限に活かした周辺地域との連携事業を実施することで、スポーツや地域の魅力向上と活性化、ダイバーシティにつなげる。

自由民主党 礎、和、絆 視察所見

議員名 [友枝和也]

視察日:令和6年7月11日(木)

視察先:東京都荒川区

調査項目:ゆいの森荒川及び読書を愛するまち・あらかわの推進について

平成27年愛称名決定、カフェ事業者決定。平成29年1月建設工事竣工。

図書館があるのに「静粛に！」じゃない。地域コミュニティの拠点だから会話OK。

そのかわり静粛の空間がいい場合は学習室へ。

飲食可スペースがあり、長期滞在可能となっていて、カフェには貸し出し前の図書を持ち込める。

ゆいの森ホールとして、使用していない時は閲覧席として利用。区政の発信の場であり発表の場。

ゆいの森子どもひろばとして、子供自身の五感を使った遊びや実体験の場。

異世代、同世代との交流機会の拡大や子供の活字離れへの対応、子育てしている人の孤立防止に役立てる。

荒川区は、温かみのある下町らしい文化を受け継ぎ、古くからの歴史及び伝統を随所に残しつつ、新しさを幾重にも織り込んだ文化を形成し発展。八代市にも通じる面もあり、読書だけでなく、文化や歴史もコミュニティも一同に介する施設もあっていいのかなと感じた。

令和7年3月21日

自由民主党 礎

代表 成松 由紀夫 様

八代市議会自由民主党 礎
管外行政視察復命書

視 察 期 日 : R7.2.18 (火) ~ R7.2.20 (木)

視 察 先 : 【東京都】 経済産業省

日比谷国際ビル

参 加 者 : 議 員 友枝 和也



自由民主党 礎 行政視察所見

議員名 [友枝和也]

視察日・令和7年2月19日(水)

視察先・日比谷国際ビル コンファレンススクエア 8E

調査項目・経済産業省製造産業局生活製品課

住宅産業室長 塩崎雄治

「畳のこれからを考える」

経済産業省として、畳をメインテーマに講演会を開くのは初めての取り組みだと冒頭に説明あり、

これまでイ業振興議員連盟としての取り組みや要望活動の成果があらわれてきたと感じた。

1人目の講演者は全日本畳事業協同組合理事長石河氏

畳産業の現状と課題を講演。畳屋さんの90%は零細企業で畳店経営として過去一番厳しい状況にあると。

原因として、和室の激減。機能的で、デザイン重視の洋風建築増加。畳張り替え施工単価が安い等。

対応策として、畳振興議員連盟も国会で組織されている。畳を生業とする、生産者、流通、畳店が一つに集約して、畳業界の受け皿となる組織ができないか。

と提案。

3人目は、八代市。4人目は八代市の若手生産者が講演し、八代市からは、産地の現状、イグサの栽培と畳表の加工、産地の課題、産地の取り組みなどを説明。

生産コストの上昇で所得率の低下。い業専用機械の製造中止、生産者の減少等を説明。

若手生産者の講演では、若手ならではの取り組みや、生産者のやりがい、苦勞もわかりやすく説明され、参加者の皆さんの心に響く講演となりました。

その他にも、建築士さんからの講演もあり、さまざまな角度から畳の普及に向けた取り組みや、中小企業組合等活路開拓事業の説明があり、異業種単体ではなく、共同で取り組める補助金等ができないものなのかとの、今までのやり方ばかりでなく、新しい取り組みで、天然の国産イグサを使って作った畳表の振興を異業種の方々と考える講演になりました。